

滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和4年度 第3回)

- 日 時 令和5年3月30日(木)15:00～16:50
- 場 所 WEB会議
- 出席委員 山岡委員(部会長)、中村真理委員(副部会長)、後藤委員、東委員、河岸委員、岡戸委員、山委員、築地委員、安原委員(中村勝弘委員代理)
- オブザーバー (株)JR西日本コミュニケーションズ

○ 議 題

- (1)令和4年度介護の仕事魅力発信事業について
- (2)令和5年度介護の仕事魅力発信事業について

1 議題(1)令和4年度介護の仕事魅力発信事業について

※オブザーバーから事業実績について説明

【部会長】

- 今の説明に対して、質問、確認事項等はあるか。

【委員】

- レイクスターズとの連携事業は、次年度により具体化されるような気配もあり、2年目の取組の中ではよかったところ。コロナ禍でも、今回はしがけあフェスタに全団体が参加できたので、2回目としては評価できる。
- 事業結果を細かく分析され情報提供もされているので、どのように次年度に繋げていくかがこれからの課題。
- 数字を活用するノウハウがあまりない業界であるので、アドバイス等いただきながら、よりよい積み重ね、ビルドアップができれば良いと思う。

【委員】

- 専門性が高くなっており、私たちがそれをどこまで理解しどのように関わっていけばいいのか課題。介護事業をしながらこの様(オブザーバーの様な)事は出来ないなので、団体の代表としてどう理解しどう関わっていけばいいのか考えている。
- 活動自体は2年目でグレードアップしている。「効果測定」が必要という意見が団体の中でも出ているので、きっちりと押さえてくれた良い報告をいただいた。

【部会長】

- 皆様のイメージの中で自走化があると思う。オブザーバーの専門的な内容をどういったかたちで今後に繋げていくのかというところ。

【委員】

- こうした取組を継続できれば小さな積み重ねになるのではと思う。
- イベントでは、コロナで大変だった時に皆さんで協力できた。一致団結したかたちでやればもっと楽しいことができ、介護のイメージが上がるのではないかと思えた。
- 参加した職員も、介護の仕事のなかでこの事業に携われたことがプラスになったと思う。
- 衰退しないよう、元通りにならないよう、何かしら継続したい。

【委員】

- 学生からは、一日楽しかったが、ステージとイベントが分かれておりイベント対応ばかりだったので、ステージの方も気になって見たかったという意見もあった。次回があれば、イベントの横で授業風景等のパネル展示を出させていただきたい。

【部会長】

- 次年度も事業は継続するので、学生さんに参加してもらいたい。よろしくお願ひしたい。

【副部会長】

- 年間を通じてネットで発信、媒体広告を通じての発信等、継続した取組が今までできていなかったもので、非常に良かったと思っている。
- WEB コンテンツを現場の職員が見られるように、職能団体として発信をしていかないといけない。内部から発信していきたい。

【委員】

- 身内でさえ見えていない人が多い。この良いものをどうすれば届けられるのか、工夫が必要である。

【委員】

- 昨年度より活気があったかなというイメージがあったが、それが数字に表れていてよかった。
- 各スペースが離れていて周りの状況が分からなかった。

【部会長】

- 全体を通して認知度が上がっているという事、介護の人たちが何かやりだすなという事が、じわじわと広がって行って、データ(数値)としても上がっていて素晴らしいと思う。
- 連合会の役員さんから、「オブザーバーのスタッフが去年より少なくないか。今年は誰も居なくて、どうすればいいのかわからない。」という意見があった。また、ステージのビンゴ大会の時にはオブザーバーが呼び込みをしてくれたが、連合会の落語の寄席の時は人がすごく少ない状況であった。「ステージの呼び込みは全体を通してしてもらえたら」「ステージの盛り上がりの差が極端であり残念であった」という意見もあった。限られたスタッフの中で一生懸命していただいたと思うが、このような意見があったということをお伝えしておきたい。

【委員】

- すべき事をしっかりされた結果として、情報が伝わっていく経路が徐々に出来上がってきているかなと思う。まだまだ本格的なものでは無いかもしれないが、一つの登坂ルートが見つかったというところかなと思う。

【部会長】

○オブザーバーはここで退席となります。お世話になりありがとうございました。

※オブザーバー退席

2 議題(2)令和5年度介護の仕事魅力発信事業について

※事務局から説明

【部会長】

○議題(2)について、検討や意見交換をお願いしたい。

【委員】

○2年やってきて、個人的にはフェスタの会場はイオンモール草津の方がよいと思っている。この2年でデメリットが見えてきた部分もあるが、継続して3年経過して結果が見えてくるイメージを持っている。イオンモール草津で成功して良かったというわけでもないが、もう1年くらいは、色々な弊害はあるが、イオンモール草津でやる方が良いイメージはある。より一層人が集まる場所で実施するのがベストかと思った。

○大津市も同じ時期にイベントをするという事で、時季が重ならないように大津市の会議でも言っている。調整していけばいいと思う。

【委員】

○人の多さで言えばイオンモール草津はまとまっていいていいと思うが、滋賀県内を回るのもいいのかなと思う。家から近いと「行こうか」となるので、その日の集客も大事だが、県下全域で出来るかたちを考えるのも大事かと思う。

【部会長】

○以前、草津で続けた方がいいのではという意見もあったがどうか。

【委員】

○自走化する中で難しくなるのではないかと等思うと、北部開催のタイミングは今だと思う。

○フェスタのアンケートにもあったが、若い世代がフェスタの現場で介護の魅力を発信するというのが、自分たちのようなおじさんが発信するよりも何倍も効果がある。先日、社会福祉学会に参加された方がいたと思うが、20歳代の方たちが、自分たちで、自分自身が障害を持っている中で発信する力強さは、心を揺さぶられる部分があり、理屈ではなく、こんな世代の子がここまで世の中の事を考えているのかと、全く太刀打ちできないような力を感じた。そういう中身にはなりつつあるが、継続して開催していただけるといいかなという感じがある。

【部会長】

○若い学生さんという点ではどうか。次年度も、ぜひとも一緒をお願いしたいが。

【委員】

- 会場に関しては、北部のビバシティもいいのではないかなと思う。南部だけではなく、北部でも一度開催してはどうかと思う。ビバシティは駅に近く、駐車場も満車状態。北部の現場の方に聞くと人材の確保を言っておられる。結果はどうなるか分からないので、開催の価値はあると思う。
- 中身も吟味しながら、若い人が寄ってくれるような企画も考えたらいいのではないか。昨年度、オブザーバーが頑張ってくださって、学生に色々提案してくださった。そのような力もあって昨年よりは良いものができたと思っている。

【副部長】

- 北部での開催は嬉しい。6月に彦根の文化プラザでイベントあり、昨年も「しがけあフェスタ」の宣伝をさせてもらったが、彦根の人は「草津やん」の一言で終わりみたいな感じになる。6月のイベントで、11月の宣伝効果が非常にいい時期。彦根も人は少なくないと思う。
- 場所というより内容的に来たいと思えるかどうか課題。
- 草津だけでなく色んな人に知ってもらうには、エリアを回るのもしていただきたい。

【部長】

- 人材センターは彦根駅前の平和堂にもあるが、北部だったらやりにくいということはあるか。計画全体に対しても何かあるか。

【委員】

- 北部だから難しいということは特に無いとは思う。人材センターの就職フェアに関しても、大津・草津・彦根と実施している中で、元数はもちろん草津より彦根の方が少ないが、とりわけ大差はないので、色んな所で開催するのも一つかなと思う。

【委員】

- 会場については3年で様子を見るのもありかなと思うが、ビバシティの方との話しの内容をみると、すごく乗り気で協力的に進めてくれている気もするので、ビバシティでやってみるといいのかなと思った。

【部長】

- 報告書に会場利用料はいただかないと記載があるがイオンモール草津も利用料は払っていなかったのか。

【事務局】

- そうです。会場の利用料は県との包括協定があるため払っていない。
- 平和堂との包括協定はいろんな形であるが、今回、利用料は結構ですとなった。

【部長】

- ビバシティは平和堂で地元企業なので、協力的なのかもしれない。
- 2年後の自走化、次年度に向けてのアドバイスやご意見お願いしたい。

【委員】

- 会場の場所よりも、自走化に向けた出口をどの様に設定するかの問題が大きいと思う。現在、県の予算で1,500万円使っている。自走化するという事は、将来、この分を自前にしていかないといけないが、毎年どのようにして調達できるのか考える必要がある。1,500万円は無理だが、1,000万円なら500万円なら、という見積もりが必要だと思う。見積もりの中で、何をするか、何が最優先か見定めてやっていく。自走化することを想定するのであれば、2023年度に何をするか考える、という順序だと思う。
- 会場が焦点になっていたが、自走化するにあたってどこの企業と組むのかが極めて重要になってくると思う。イオンモールという企業は、地元密着型ではなく、グローバルスタンダードを目指す企業である。一方、平和堂は地元企業で一駅一つが基本的な在り方である。平和堂という企業とどうしっかり組むかが出口の戦略を考える上で重要な気がする。
- 広報は広く知らせるという意味で発信という事なのだが、広報にはもう一つ大きな向きがあり、インターナル広報・自分たち向けの広報というものがある。この2年間の活動の結果、外部の事業者を使う事によって、自分たちの中の情報共有や思いの共有、発信するべきものを作る活動を通じての共有あるいは刺激のしあい、自分たちが何をしようとしているのか、どういう存在であるべきなのか考えるきっかけを得ていると思う。これがインターナル広報の意味である。出口等を考えると、外向けの発信よりも、インターナル広報、関係する人、関係する人の周りにいる人が自信を深める、外に発信するための言葉を発見する、表現形態を発見する等が大切だと思う。そういう方向で、インターナルな広報を重視するのがいいと思う。

【部会長】

- 自走化に向けては事務局が各団体に話を聞き、出口を考えてくれていると思う。難しい問題ですが、1,500万円の事業をどう継続していくか。
- プロポーザルの審査があるが、これに関する募集の要領・内容、審査内容は異論無しでよろしいか。
- 事務局から提案があったが、審査会には私が点数を付ける側ではなくアドバイザーとして参加する。よろしくお願いします。
- 会場に対してのそれぞれの意見、思いが出たが、続けた方がいいという意見や今後の事を考えて北部エリアで開催した方がいいという意見もあった。
- これだけは次年度に伝えておきたいという事があれば。

【委員】

- 自走化に向けた展望は次年度に本格的に考えていかないといけない。自走化でお金をかけずに開催するのも有りかもしれないが、これだけの規模をしようと思うとお金は必要。協賛企業をどのように展開していくのか展望が想像できない。滋賀レイクスはそういう方向の一つかなと思うが、具体的にどういう事をしていくのか、県の方で展望をどう考えているのか聞いてみたい。

【事務局】

- 滋賀レイクスから提案いただいていることにしっかり繋がり、進めていきたい。こうした相手方を大事にすることが一歩だと思っている。今後、イベント等をやっていく中で、繋がりや関係が出来ていき、いろんな案が出てくると思う。

【部会長】

○素案の方で、令和6年度に「案」と記載があるが、県予算を補助事業化すると文言に入っているが、いきなり令和6年度から企業協賛金より、補助金的なことも県は考えてくれているのかと思っ
ている。県としては裏方になると思うが、補助金等考えてくれていると思う。

【委員】

○広告代理店はスポンサー探しのプロなので、企画提案募集要領の中の要件としてスポンサーを探
すという事もやっていただけたらどうか。介護用品の業界、メーカー、販売会社、レンタル会社など多
数あるので、各社5万円100件でも500万円になる。今から要領を変更するのは議論も煮詰まっ
ておらず大変なので今年度はこのままで、来年度・再来年度に向けて、特にイベントと動画コンテンツ
作成辺りにスポンサーを付けていくという事について検討を。

【部会長】

- その他、全体に対して意見はあるか。
- 議題は以上で終了とする。
- 2年続けて部会長を務めさせていただきありがとうございました。引き続き、このメンバーで盛り上
げていきたいと思っている。次年度もよろしく願いしたい。

【事務局】

- 今期の部会は終了となるが、来年度もよろしく願いしたい。
- 魅力発信は、県よりも現場の方からの発信が心にも響くだろうと感じてもらえると思っている。
そのあたりを大事にしながら取り組みを進めていきたいと考えているので、引き続きよろしく願い
したい。

以 上